

御入学・御進級おめでとうございます

副校長 齊藤 誠

やわらかな日差しを受け、附小の森では落ち葉の中から草花が芽吹き、力強い命の煌めきを感じる季節となりました。

この、春の訪れを感じる喜ばしい季節に、新1年生69名を迎え、1つ学年を進めた附小っ子と共に、令和5年度の附属小学校がスタートしました。保護者の皆様と力を合わせ、子供たちのよりよい成長を促していきたいと考えています。どうぞ、よろしくお願いいたします。



さて、本校の教育目標は、「主体的人間の形成」です。この目標を実現するための具体目標は、「思いやる子・つくりだす子・やりとげる子」です。令和5年度は、これらの具体目標の中から、「つくりだす子」を重点と定めて教育活動を進めることとしました。これは、昨年度に引き続き同じ重点ですが、「コロナ禍を乗り越え、新たな附属小学校の歴史をつくっていく」という思いを込めており、全校の附小っ子にも、「一人一人が課題を見付け、アイデアを生かし、創造的に活動してほしい」という願いを伝えました。

ところで、創造性を発揮するためには、自分及び他者とのコミュニケーションが大切です。自分とのコミュニケーションとは、自問自答しながらじっくり考えるということです。これは、学校の授業だけではなく、普段の生活の中でも大切です。

例えば、道に咲いている花を見つけたときに、「①きれいな花だな」「②何という名前だろう」「③どうしてここに咲いてるんだろう」「④誰が育ててるのかな」「⑤ほかにも近くに花が咲いてないかな」と、心の中でたくさん対話が生まれそうです。

①のように、心が動くとも思考が始まります。②のように、名前を知ると覚えていられます。③のように、なぜと考えると科学が始まります。④のように、誰かと考えると社会性が育ちます。⑤のように、ほかはと考えると視野が広がります。自分との豊かなコミュニケーションができると、考えることが楽しくなりそうですね。

楽しく考えたことは、人に話したくなります。他者とのコミュニケーションが発生します。しかし、他者とのコミュニケーションが豊かになるためには、聞いてくれる相手の存在が大切です。入学したての子供たちは、話すことが大好きです。だから、自分の関心のあることを次から次へと話します。もしかすると、聞くことは得意ではないかもしれませんが。ところが、時々、話を聞く天才が現れます。話を聞く天才から話を聞いてみると、家庭では、自分から話をするこの方が多いということです。きっと、お家の中に話を聞く天才がいて、天才との会話を通して話を聞く力を身に付けたのでしょう。



自分や他者とのコミュニケーションを通して、少しの関心は大きな思考につながり、新たな物事を創造していきます。学校では、このような過程の一部を、授業という形で体験してもらっています。

令和5年度も、教員一同で力を尽くしてまいります。保護者の皆様の御協力・連携をいただき、一緒にお子様を育てていきましょう。